

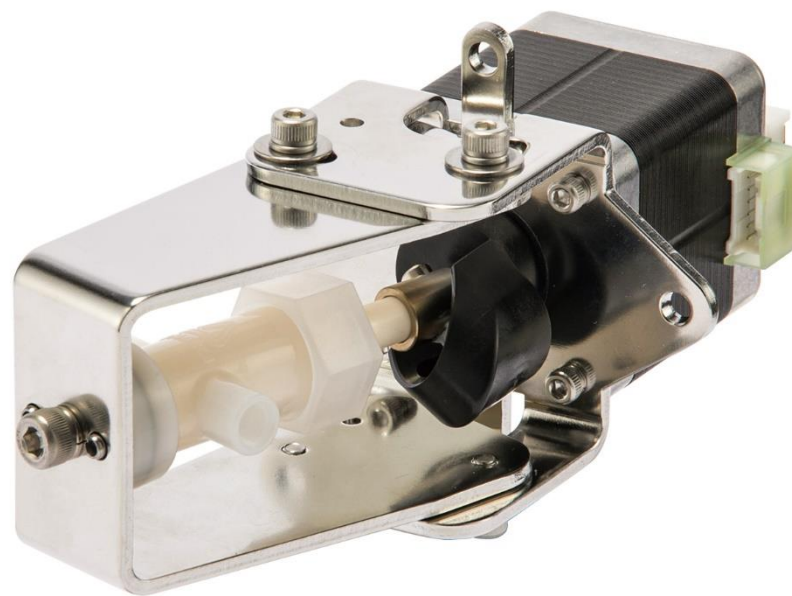


The Heart of Industry

2024年3月期 決算説明資料

2024年5月13日

株式会社イワキ 証券コード：6237
銘柄名：イワキポンプ



ハイセラポンプ V-07AF66-P01

製品説明：高精度注入・高精度制御が可能なポンプ。

主に医療機器市場の臨床検査装置、免疫分析装置で活躍する。

I . 2024年3月期 決算概要 **P.3**

II . 2025年3月期 業績見通し **P.15**

III . 今後の取り組みについて **P.23**

IV . Appendix **P.29**

I . 2024年3月期 決算概要

2024年3月期 決算サマリー



長期ビジョン「イワキグループ10年ビジョン」の定量目標である連結売上高400億円、営業利益率10%を1年前倒しで達成。前期4Qより損益取込した中国連結子会社（イワキ香港G、イワキ上海）の業績寄与により、大幅増収、増益。

	2023.3期		2024.3期	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
売上高	37,730	44,539	6,808	+18.0%
売上総利益 (売上総利益率)	12,923 (34.3%)	18,328 (41.2%)	5,404	+41.8%
営業利益 (営業利益率)	2,254 (6.0%)	5,465 (12.3%)	3,210	+142.4%
経常利益	3,745	6,222	2,476	+66.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,257	4,459	201	+4.7%
1株当たり当期純利益	193.94円	202.32円	8.37円	+4.3%
自己資本当期純利益率 (ROE)	15.8%	14.4%	—	(▲1.4pt)
投下資本利益率 (ROIC)	6.9%	12.8%	—	(+5.9pt)
為替レート (期中平均)	ドル	131.64円	140.66円	
	ユーロ	138.15円	152.10円	
	香港ドル	18.08円	17.97円	
	中国人民币	19.86円	19.82円	

1 売上高：連結売上高初の400億円超え。医療機器市場が全体を牽引。

- 中国連結子会社（イワキ香港G、イワキ上海）の損益取込期間の差の売上高影響額は5,310百万円(連結調整前)。
(イワキ香港G、イワキ上海は前期4Qより損益取込開始の為、影響額は1～3Qまでの数値。)
- 医療機器市場が国内、中国向けを中心に大幅増収し全体を牽引。
- 半導体・液晶市場は、国内向けの一服感ある市場動向や、韓国向けの主要顧客の生産調整により落ち込むも、中国連結子会社の業績寄与により全体では増収。
- 売上高における為替影響（前年比）は+1,072百万円。

2 営業利益：中国連結子会社の損益取込期間の差の影響に加え、各子会社の増収効果により大幅増益。

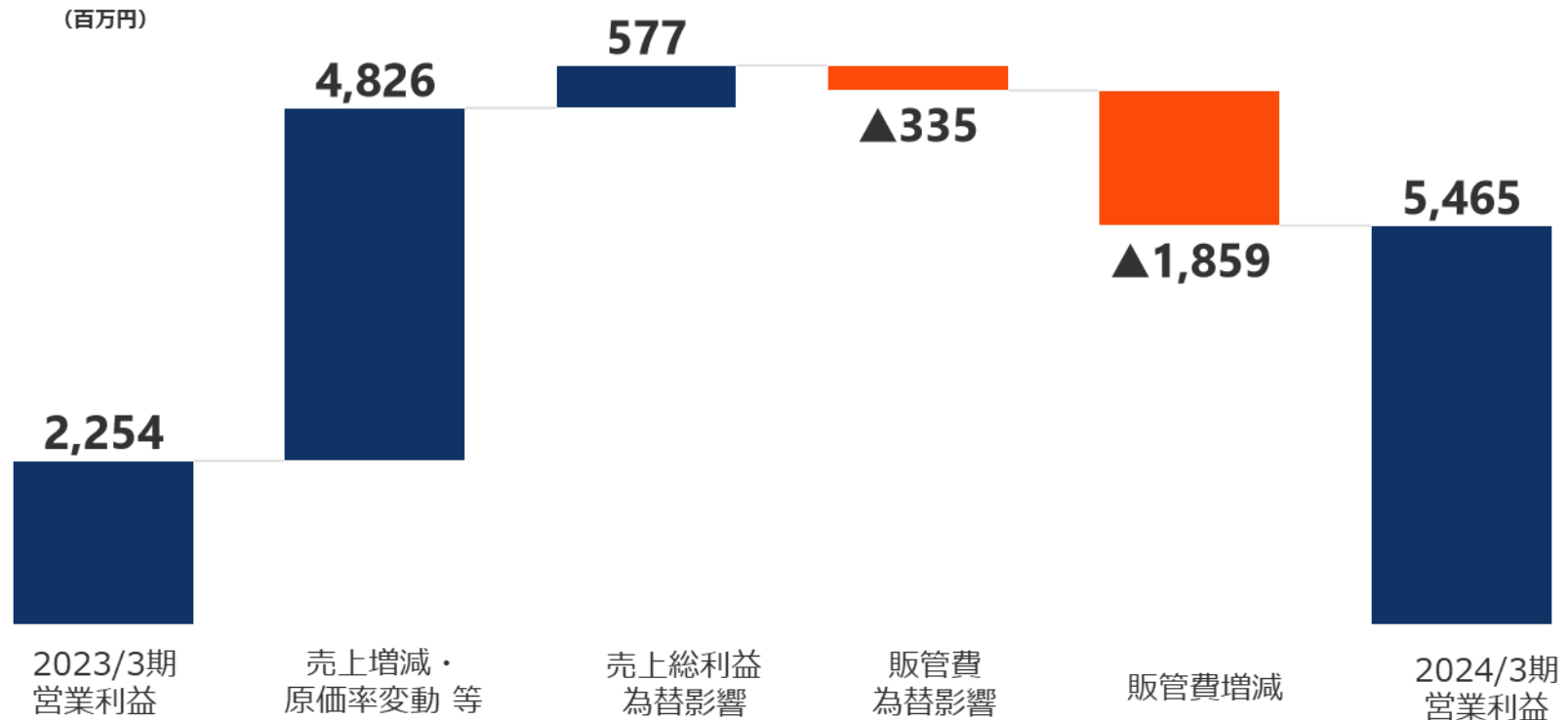
- 中国連結子会社（イワキ香港G、イワキ上海）の損益取込期間の差の営業利益影響額は1,824百万円(連結調整前)。
- 国内（イワキ）を中心に中国連結子会社以外の各子会社も増益。
- 営業利益における為替影響（前年比）は+242百万円。

3 親会社株主に帰属する当期純利益：前期発生の特利益の剥落等あったものの、最終利益は増益。

- イワキ香港G、イワキ上海の子会社化や、半導体・液晶向け、表面処理装置向けの不調続くイワキ台湾の減益により、営業外収益の持分法による投資利益が減少。
- 前期の一過性の営業外収益（米国子会社における受取還付金）、特利益（段階取得に係る差益）が今期は発生しなかったものの最終利益は前年比増益。

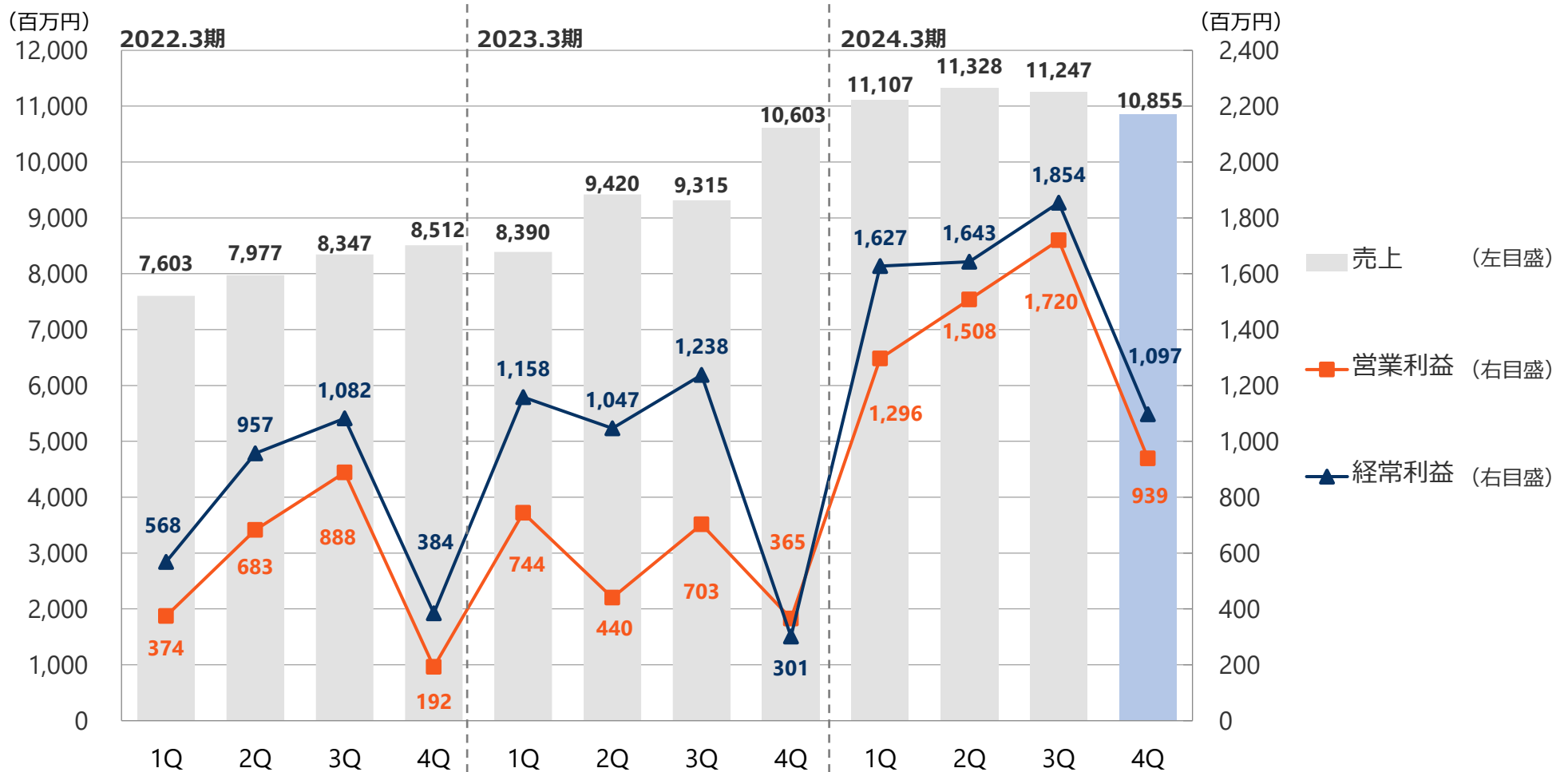
2024年3月期 増減益分析

通期： 為替1円当たりの感応度	USドル	ユーロ	香港ドル	中国人民元
売上	68百万円	34百万円	193百万円	157百万円
営業利益	11百万円	11百万円	114百万円	53百万円



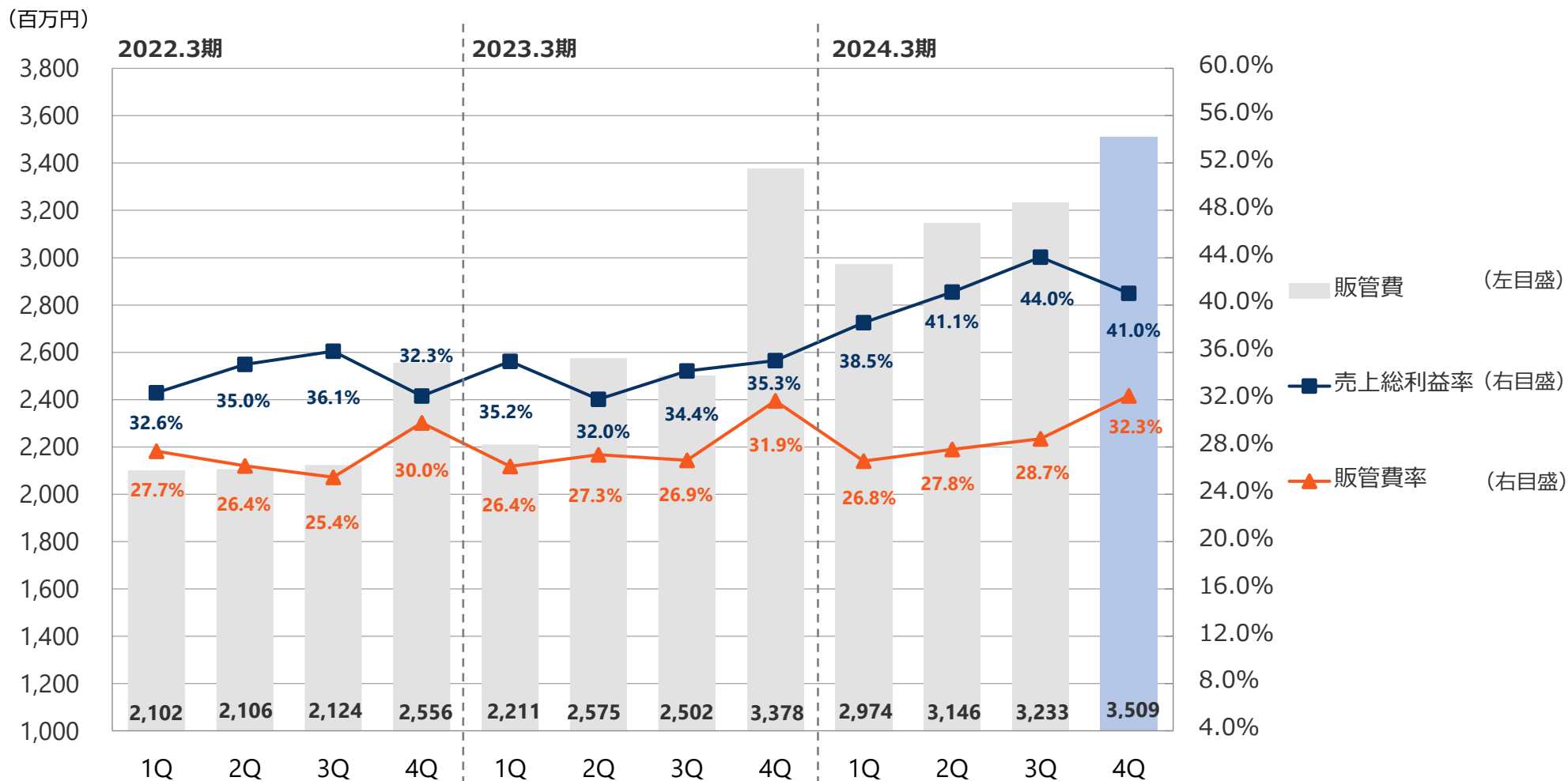
売上高・営業利益の推移（四半期ベース）

3Qに発生した原価計算方法の変更による原価調整（利益プラス要因）の影響と、業績に連動した役員賞与等により4Q営業利益は直前四半期比で減少。今期の各会計期間利益水準は、増収効果や中国連結子会社の連結効果により、前期以前の各会計期間利益水準よりも高く推移した。









売上総利益率・販管費（率）の推移（四半期ベース）

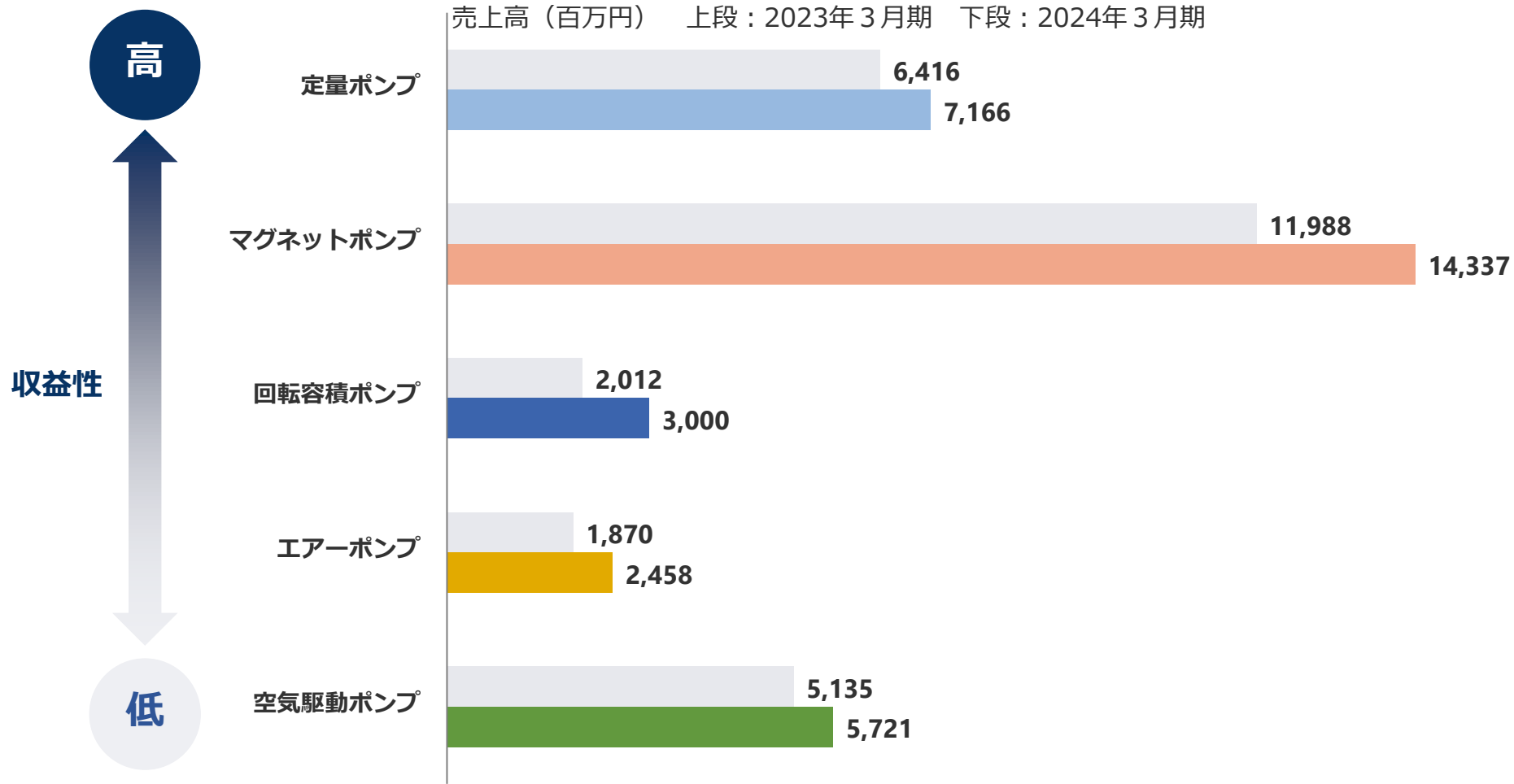
4Q会計期間売上総利益率は減収影響や3Q発生の原価計算方法の変更による原価調整影響（利益プラス要因）により直前四半期比で減少した。4Q販管費、販管費率は業績に連動した役員賞与の計上等により、他Qよりも増加。



製品別 販売市場について

マルチ市場 への販売	主なポンプ 用途	マグネット ポンプ 	定量ポンプ 	空気駆動 ポンプ 	回転容積 ポンプ 	エアー ポンプ 	システム 製品 
半導体・ 液晶市場	半導体製造装置 他	●	○	●			○
医療機器市場	人工透析装置 臨床分析装置 他	○	○		●	●	○
表面処理装置 市場	プリント基板製造装置 電子部品製造 他	●	○				○
化学市場	化学薬液製造 他	●	○		○		○
水処理市場	浄水場 排水処理場 クーリングタワー 他	○	●		○	○	○
新エネルギー 市場	再生可能エネルギー 二次電池製造 他	○	○		●		○
その他 (食品・製紙等)	食品洗浄 各種冷却用途 他	○	○		●	○	○

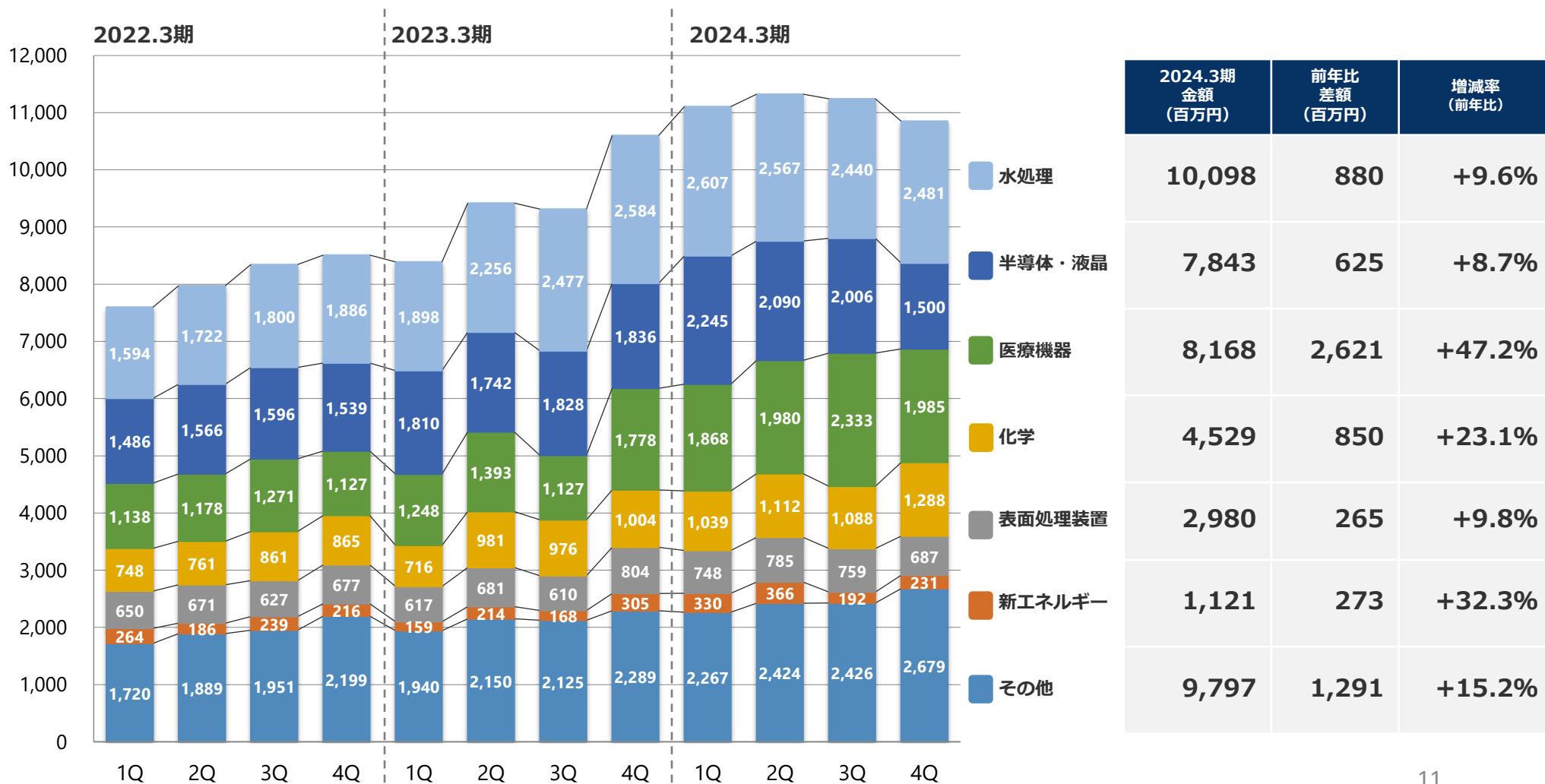
※ 塗りつぶし：各市場におけるメインポンプ



※システム製品、仕入商品、その他除く

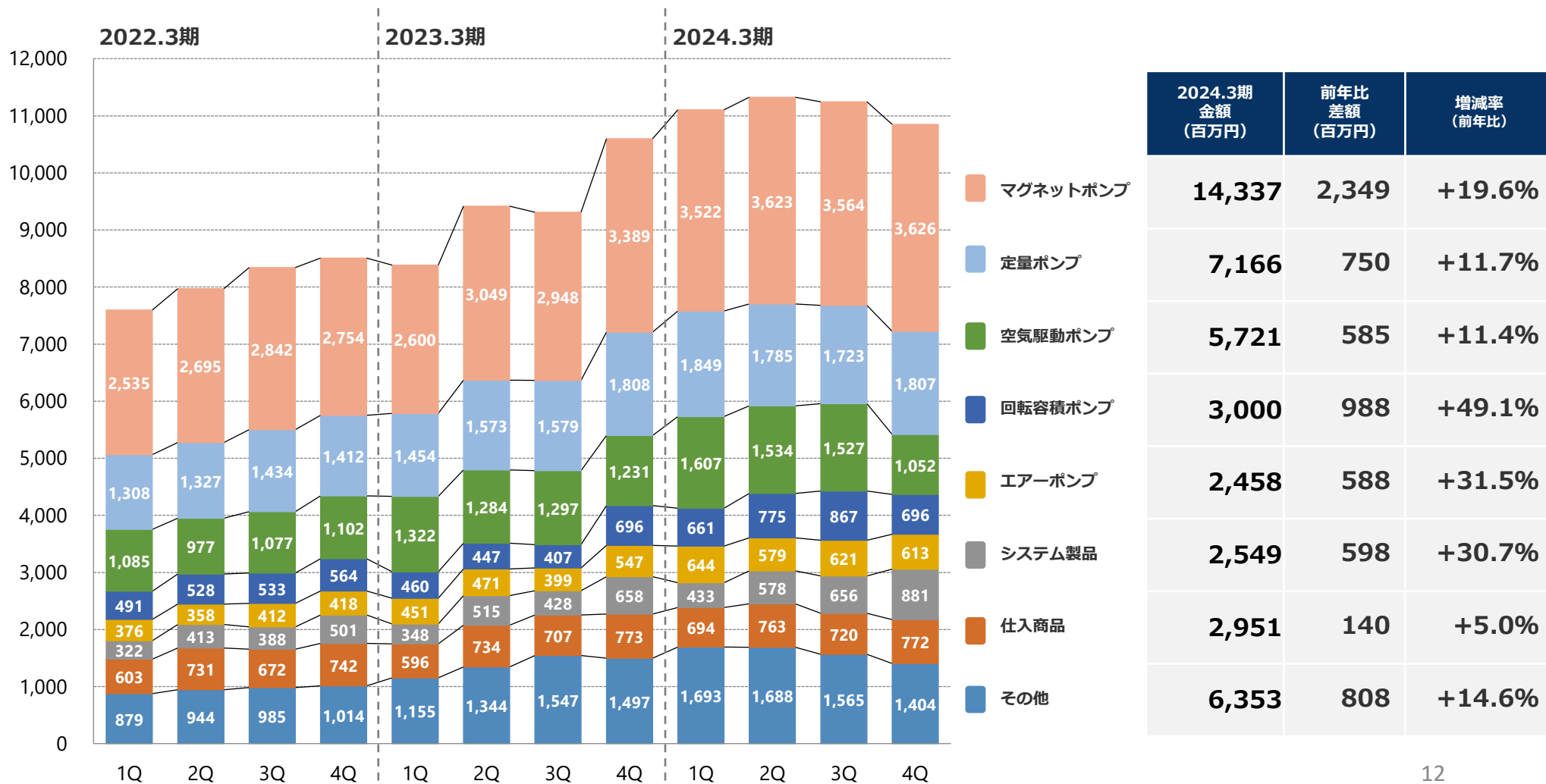
市場別売上高

医療機器市場が国内、中国向けを中心に大幅増収、水処理市場も順調に推移。医療機器市場における米国向けの売上割合は小さいものの同市場・同国向け売上は前年比約2倍の成長。化学市場は米国、欧州向けを中心に好調であり、上場来最高額となる通期売上高を達成。



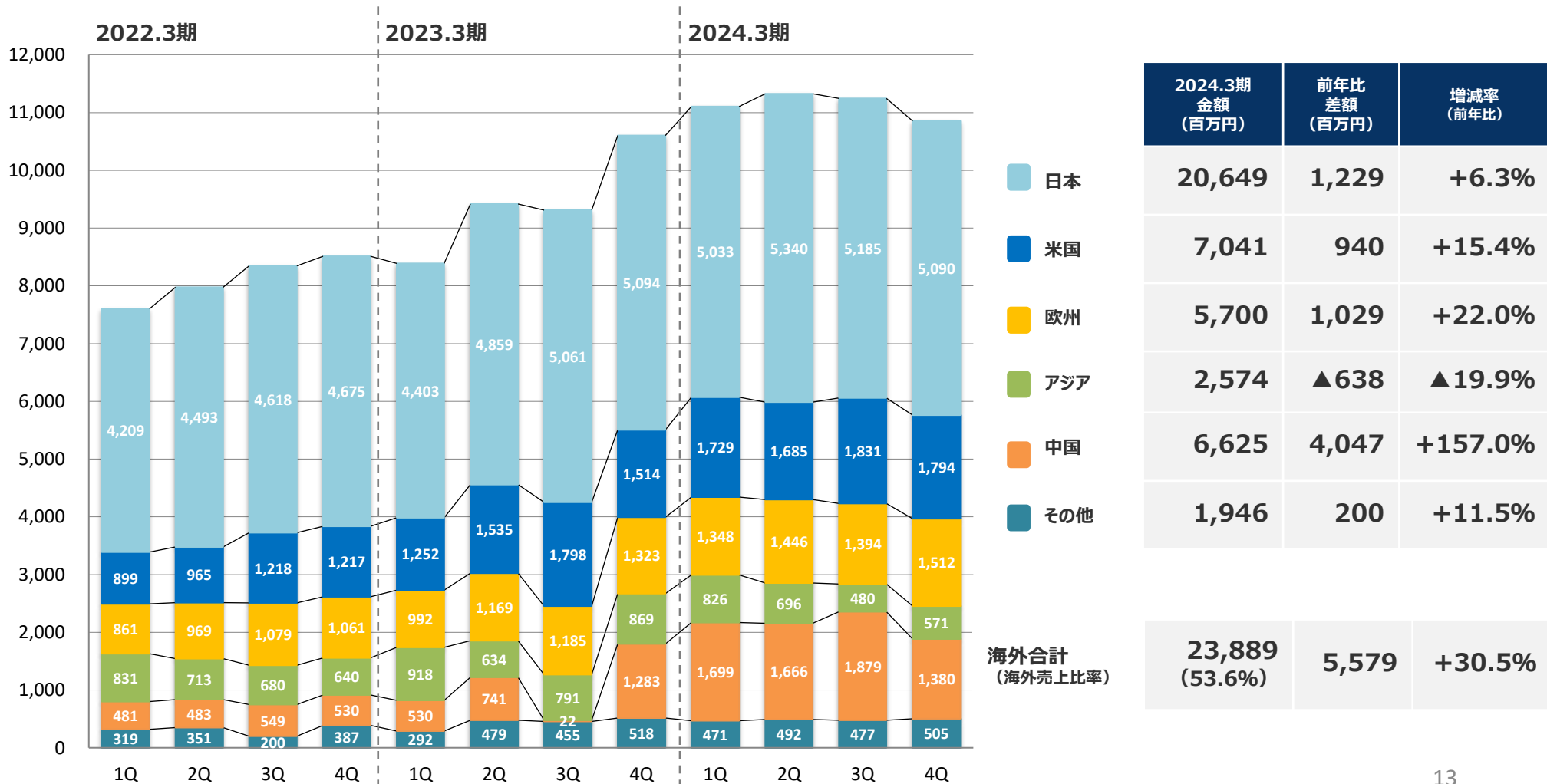
製品別売上高

仕入商品を除き全製品二桁成長。主力製品であるマグネットポンプも好調。医療機器市場の好調を受け、回転容積ポンプが前年比大幅伸長。

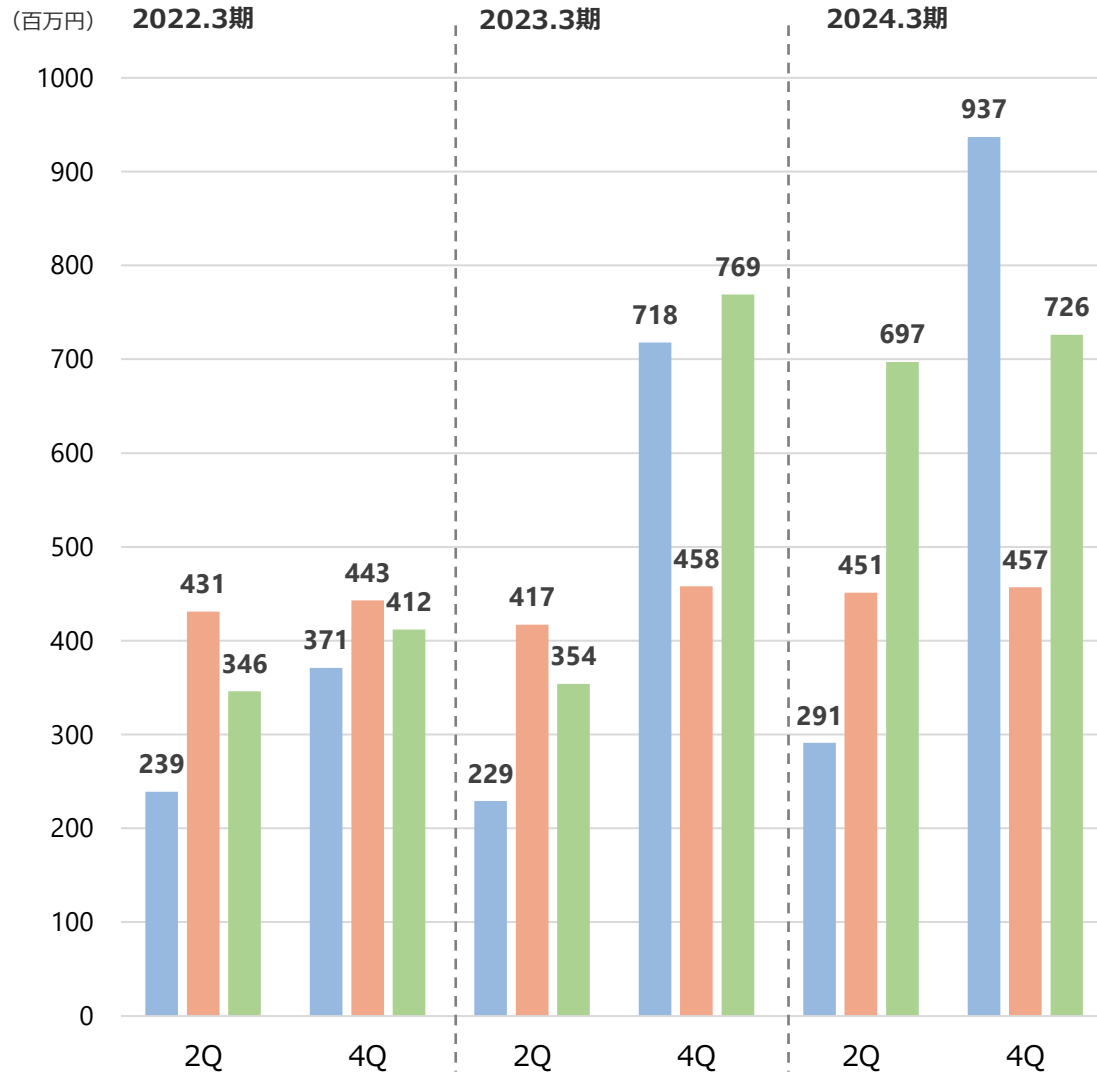


地域別売上高

中国連結子会社の連結影響により中国向け大幅伸長。一方、台湾向け半導体・液晶市場、表面処理装置市場の不調や、韓国向け出荷調整などの影響によりアジア向け苦戦。



設備投資・研究開発費・減価償却費推移（半期毎）



	2024.3月期 累計金額 (百万円)	増減額 (前年比)
■ 設備投資	1,228	+280
■ 研究開発費	909	+33
■ 減価償却費	1,423	+298

Ⅱ. 2025年3月期 業績見通し

2025年3月期 業績予想

海外を中心に増収予想であるが、売上原価の上昇、大型展示会費用の発生などのコスト増、持分法による投資利益の減少などを織り込み、営業利益以下の各段階利益は減益の見込み。

	2024.3期		2025.3期	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
売上高	44,539	47,575	3,036	+6.8%
売上総利益 (売上総利益率)	18,328 (41.2%)	18,683 (39.3%)	355	+1.9%
営業利益 (営業利益率)	5,465 (12.3%)	5,367 (11.3%)	▲97	▲1.8%
経常利益	6,222	5,821	▲401	▲6.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,459	4,193	▲266	▲6.0%
1株当たり当期純利益	202.32円	189.92円	▲12.39円	▲6.1%
自己資本当期純利益率 (ROE)	14.4%	12.1%	—	(▲2.3pt)
投下資本利益率 (ROIC)	12.8%	11.4%	—	(▲1.4pt)
為替レート (期中平均)	ドル	140.66 円	146.00 円	
	ユーロ	152.10 円	159.00 円	
	香港ドル	17.97 円	18.70 円	
	中国人民幣元	19.82 円	20.30 円	

1 売上高：国内向け売上+3.4%、海外向け売上+9.7% 予想

- 水処理市場は米国向けを中心に順調に推移する見込み。
- 半導体・液晶市場の回復は年度後半を想定。
- 前期牽引役となった医療機器市場は堅調に推移し、前年比若干増となる見込み。
- 売上高における為替影響（前年比）想定は+875百万円。

2 営業利益：売上原価の上昇や展示会費用などを織り込み、営業利益は▲1.8%と微減の予想

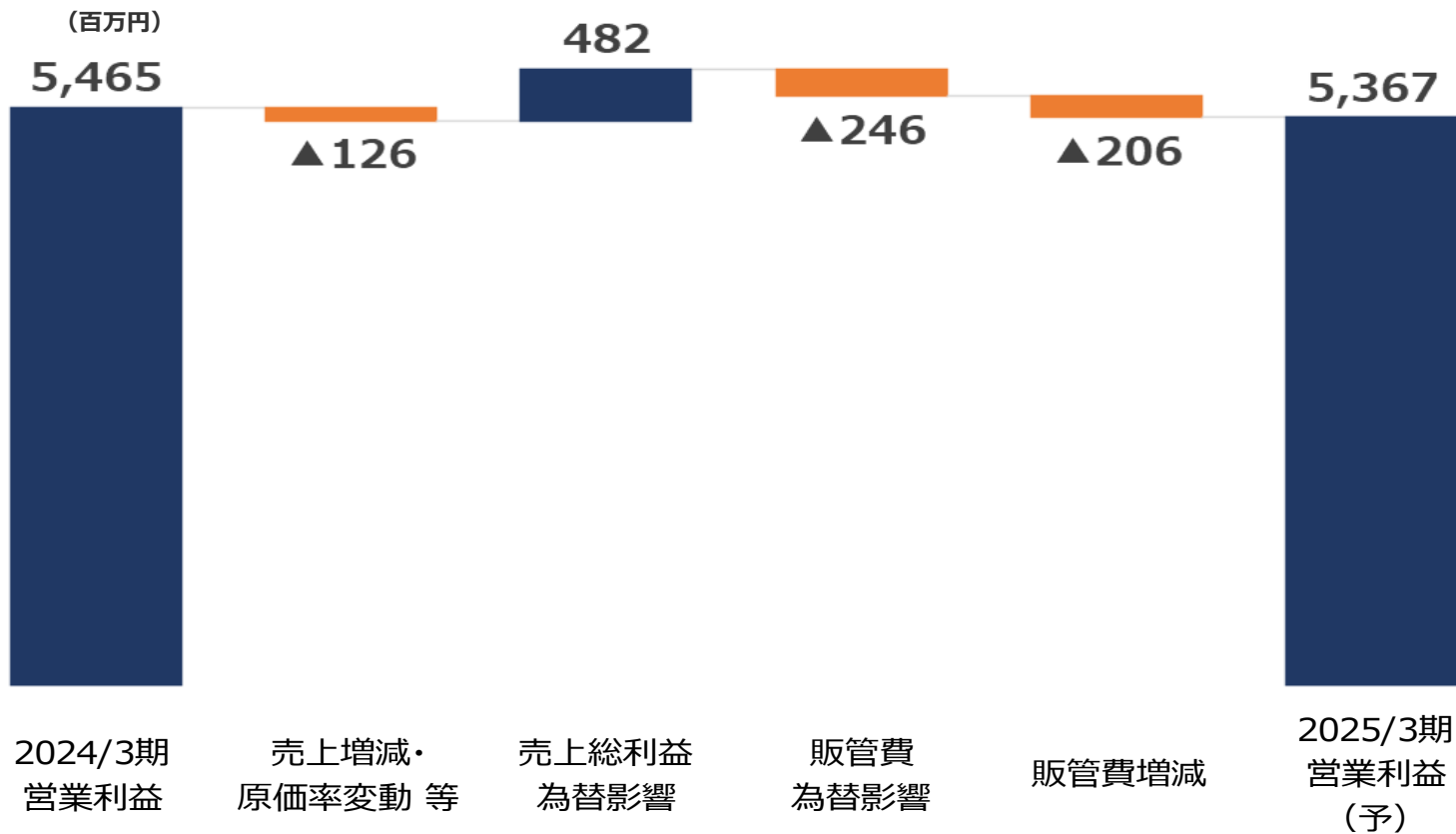
- 前期（2024年3月期）は原価計算方法変更による原価調整（利益プラス要因）の発生あるが、今期発生はなし。
- 調達価格や輸送費の上昇、大型展示会費用などのコスト増を見込む。
- 営業利益における為替影響（前年比）想定は+235百万円。

3 親会社株主に帰属する当期純利益：営業外収益の減少を想定、最終利益でも減益予想

- アジア向け半導体・液晶市場の不調は当面続く想定であることから、持分法による投資利益は減少の見込み。
- 結果、最終利益は▲6.0%の減益を予想。

2025年3月期 業績予想 増減益分析

通期： 為替1円当たりの感応度	USドル	ユーロ	香港ドル	中国人民元
売上	69百万円	39百万円	219百万円	158百万円
営業利益	9百万円	12百万円	118百万円	33百万円



各市場	国内	海外
水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理、一般産業廃水処理市場が好調 ・食の安心安全、災害対策等の観点より、滅菌市場、水耕土耕栽培市場が好調 ・インバウンド需要の回復に伴い、滅菌市場、クーリングタワー市場が好調 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に関する上下水道の整備投資は堅調 ・市場全体としては不透明感あり
医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> ・市場全体としては各社材料調達難の影響を回避するために先行手配していた部材が入り、在庫調整が行われているため軟調気配 ・内視鏡洗浄装置は回復傾向にあり、生産は安定している ・人工透析装置については緩やかではあるものの回復基調にある 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場全体としては不透明感あり ・臨床検査装置（免疫分析装置+生化学分析装置）物流の混乱は徐々に落ち着きを取り戻しつつあるが、装置メーカー各社の生産調整により、軟調に推移する見込み
新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> ・セルメーカー、材料メーカーで投資が継続 ・電池リサイクルでは投資軟調となり、市場動向を注視 ・家庭用燃料電池は需要が安定しており生産台数も堅調に推移 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米ではEV用二次電池設備投資が軟調傾向にある
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> ・当該製造装置メーカー向け需要に不透明感あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファウンドリ、メモリ向け設備投資の先送りによる不透明感あり
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値製品の開発の堅調 ・半導体材料が増加傾向 ・環境規制・脱カーボンによる樹脂リサイクル等による需要が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・北米・アジアで二次電池材料の製造投資が堅調 ・米国で半導体向け薬品製造投資が堅調 ・欧州ではエネルギー不足による設備投資マインドが低下
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ、パソコン関連は不透明感あり回復遅れているものの、デジタル化投資加速により市場全体としては回復傾向にある 	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体市場の影響を受け、当該市場も不透明感あり

※ 赤字はネガティブな見通し

2025年3月期 市場別売上高予想

水処理市場は米国向け中心に伸長。半導体・液晶市場は年度後半より回復の想定。

	2024.3期 実績 (百万円)	2025.3期 予想 (百万円)	差額	増減率
■ 水処理	10,098	11,036	938	+9.3%
■ 半導体・液晶	7,843	8,363	520	+6.6%
■ 医療機器	8,168	8,333	164	+2.0%
■ 化学	4,529	4,971	442	+9.8%
■ 表面処理装置	2,980	3,266	285	+9.6%
■ 新エネルギー	1,121	1,063	▲57	▲5.2%
■ その他	9,797	10,540	742	+7.6%
合計	44,539	47,575	3,036	+6.8%

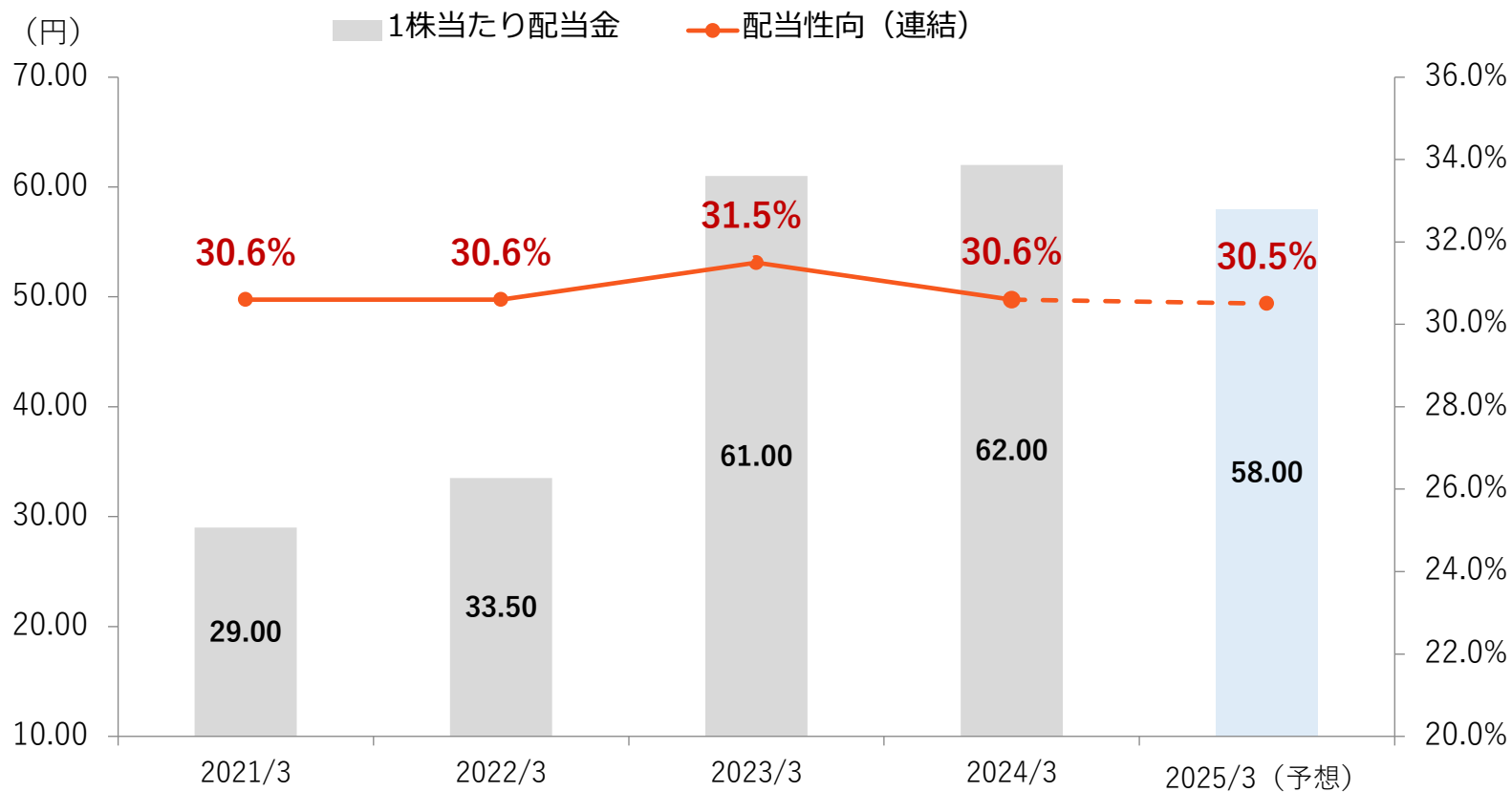
2025年3月期 製品別売上高予想

市場別売上上の予想を受け、関連する空気駆動ポンプなどの伸長を見込む。

	2024.3期 実績 (百万円)	2025.3期 予想 (百万円)	差額	増減率
■ マグネットポンプ	14,337	15,414	1,077	+7.5%
■ 定量ポンプ	7,166	7,526	360	+5.0%
■ 空気駆動ポンプ	5,721	6,095	374	+6.5%
■ 回転容積ポンプ	3,000	3,243	243	+8.1%
■ エアーポンプ	2,458	2,564	105	+4.3%
■ システム製品	2,549	2,591	42	+1.7%
■ 仕入商品	2,951	3,092	141	+4.8%
■ その他	6,353	7,045	692	+10.9%
合計	44,539	47,575	3,036	+6.8%

基本方針

- ・ 配当性向30%超
- ・ 安定的な配当



Ⅲ. 今後の取り組みについて

定量目標

2025年3月期までに

連結売上高：400億円（国内200億円、海外200億円）、連結売上高営業利益率：10%

種蒔期			育成期			収穫期		
2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期

連結売上高



営業利益率



定性目標

オールイワキで世界No.1を提供する

～ グループ一丸となり、世界No.1の製品、品質、価値、サービスを提供する～

目標を達成するための姿勢 「チェンジ&チャレンジ」

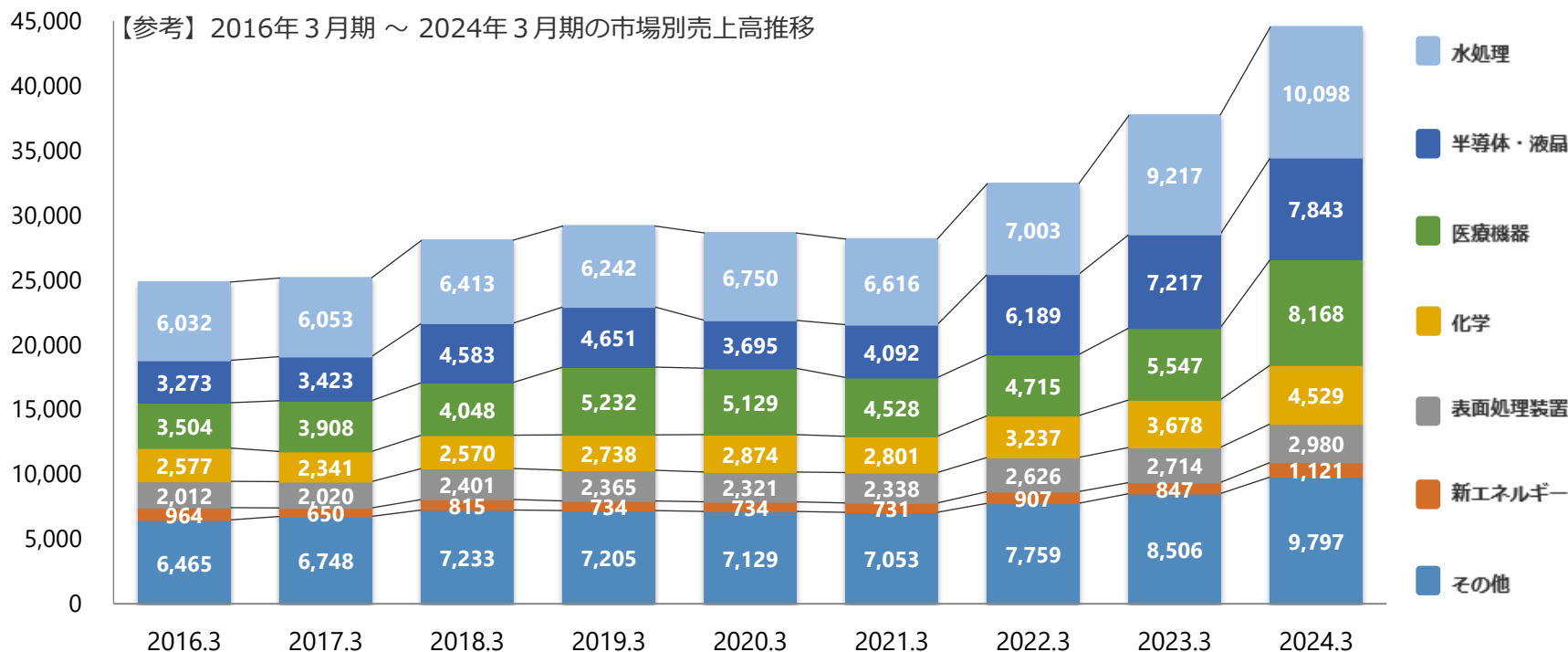
～ 変革と挑戦に躊躇しない企業文化の定着を目指す～

10年ビジョン 定量目標 1年前倒して達成

連結売上高 400億円 → 2024年3月期 実績 **445億円**
連結営業利益率 10% → 2024年3月期 実績 **12.3%**

水処理市場、半導体・液晶市場、医療機器市場など、強化市場が成長を牽引。

幅広い分野でニーズを捉えたケミカルポンプ・流体制御機器を市場に提供し続け、持続可能な社会の実現に貢献。



激しい変化が予想されるこれからの時代においても、社会に価値を提供し続けるための**次期長期ビジョン**が必要。

サステナビリティの観点を踏まえた次期長期ビジョンの策定

これまで「常に最前線で産業を支え、社会の発展と人々の幸福に寄与する。」の経営理念のもと、産業界に幅広くケミカルポンプ・流体制御機器を提供し続けることで社会に価値を提供してきたが、変化の激しいこれからの時代に対応していくべく、サステナビリティの観点を踏まえたビジョンを策定し、以下時期に発表の予定。

次期長期ビジョン 2026年3月期～

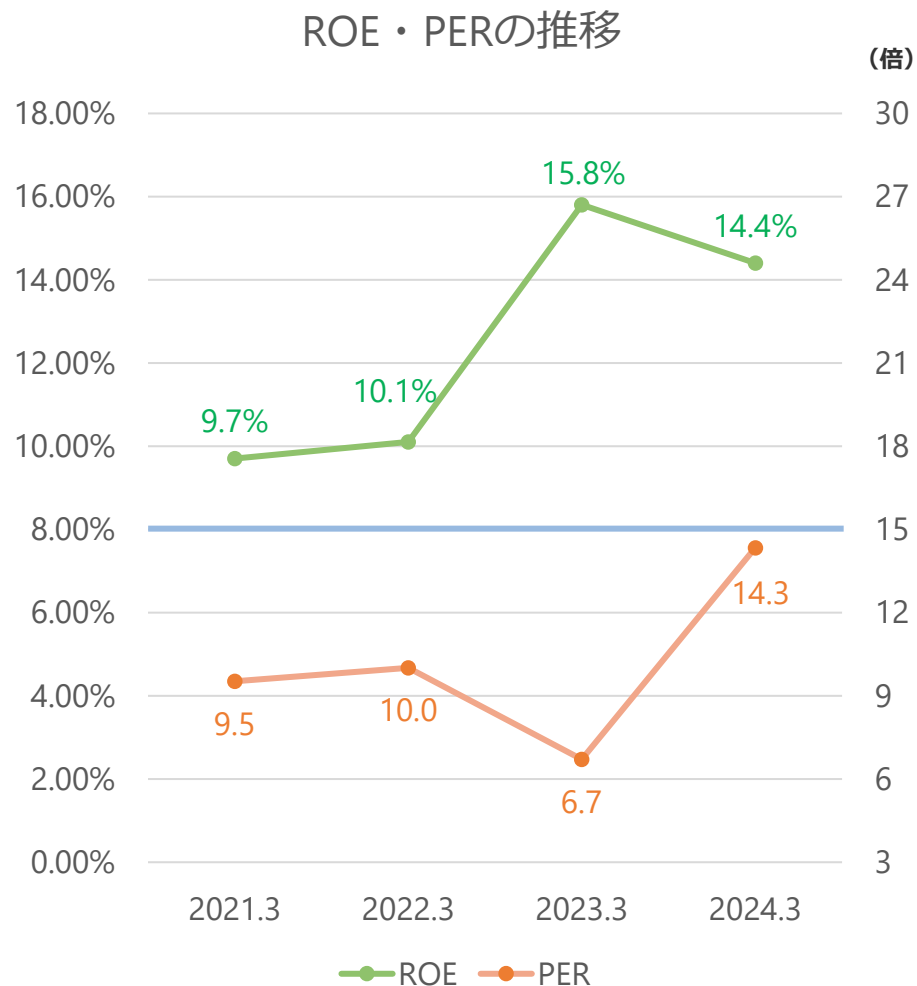
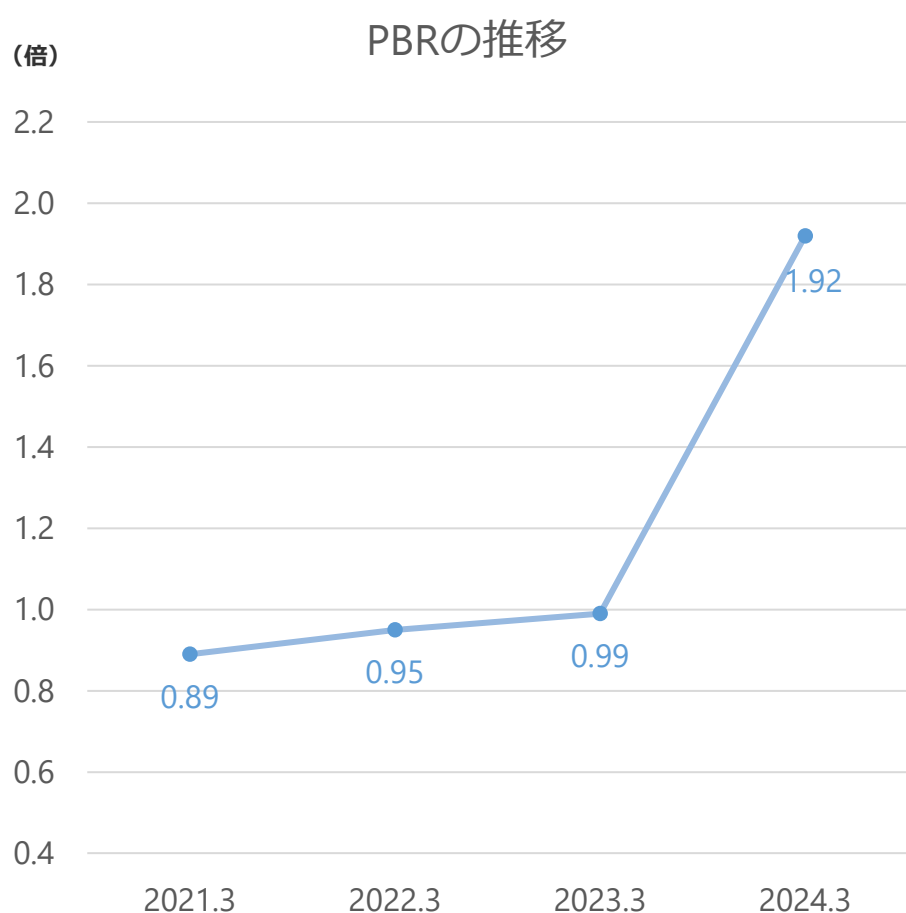
定量目標

2025年5月 発表予定

定性目標

2025年3月期中 発表予定

PBRはROE（収益）×PER（期待値）となる。直近事業年度末までの推移をみるとPBRは1倍超となったものの、PER（期待値）はやや低い水準にある。継続的なPBR向上のため、より中長期的な観点での取り組みの実施やその情報発信の強化が必要。



本テーマ取り組み方針に関する対応事項・現状及び今後の対応予定については以下のとおり。

取り組み方針	2024年3月期	2025年3月期 主な予定
<p>① 10年ビジョンの必達及び更なる成長へ挑戦する 次期長期ビジョンの策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年3月期 連結売上高400億円、連結営業利益率10%の達成 ・更なる成長を遂げ、より社会に必要な存在となるための新ビジョン策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・10年ビジョン定量目標達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・次期長期ビジョン策定、公表
<p>② 株主還元方針の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場要望などを踏まえ、 現行方針「配当性向30%超」の枠にとどまらない方針案の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針（配当性向30%超・ 安定的な配当）に基づく配当の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針（配当性向30%超・ 安定的な配当）に基づく配当の実施 ・新たな還元方針案の検討開始
<p>③ サステナビリティ経営の更なる推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業価値向上を実現するための人材育成などをはじめ、 脱炭素や人権対応など持続的な成長かつ中長期的な 企業価値向上に資する取り組みへの経営資源の投入 	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティ基本方針の策定 ・調達方針の策定 ・2023年度 CDP 気候変動質問書 「B」スコア獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合報告書発行
<p>④ ガバナンス・IRの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性役員の採用をはじめ、ステークホルダーからの客観的かつ 多様な視点の取り入れ ・情報開示の拡充及び高度化、発信強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・機関投資家・アナリスト向け 1on1ミーティング 65件 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性社外取締役候補者選任 ・統合報告書発行



IV. Appendix



会社名 株式会社イワキ (英文名 IWAKI CO., LTD.)
 **ケミカルポンプ** の専門・総合メーカー

設立 1956年4月10日

代表取締役社長 藤中 茂

本社 東京都千代田区神田須田町二丁目6番6号

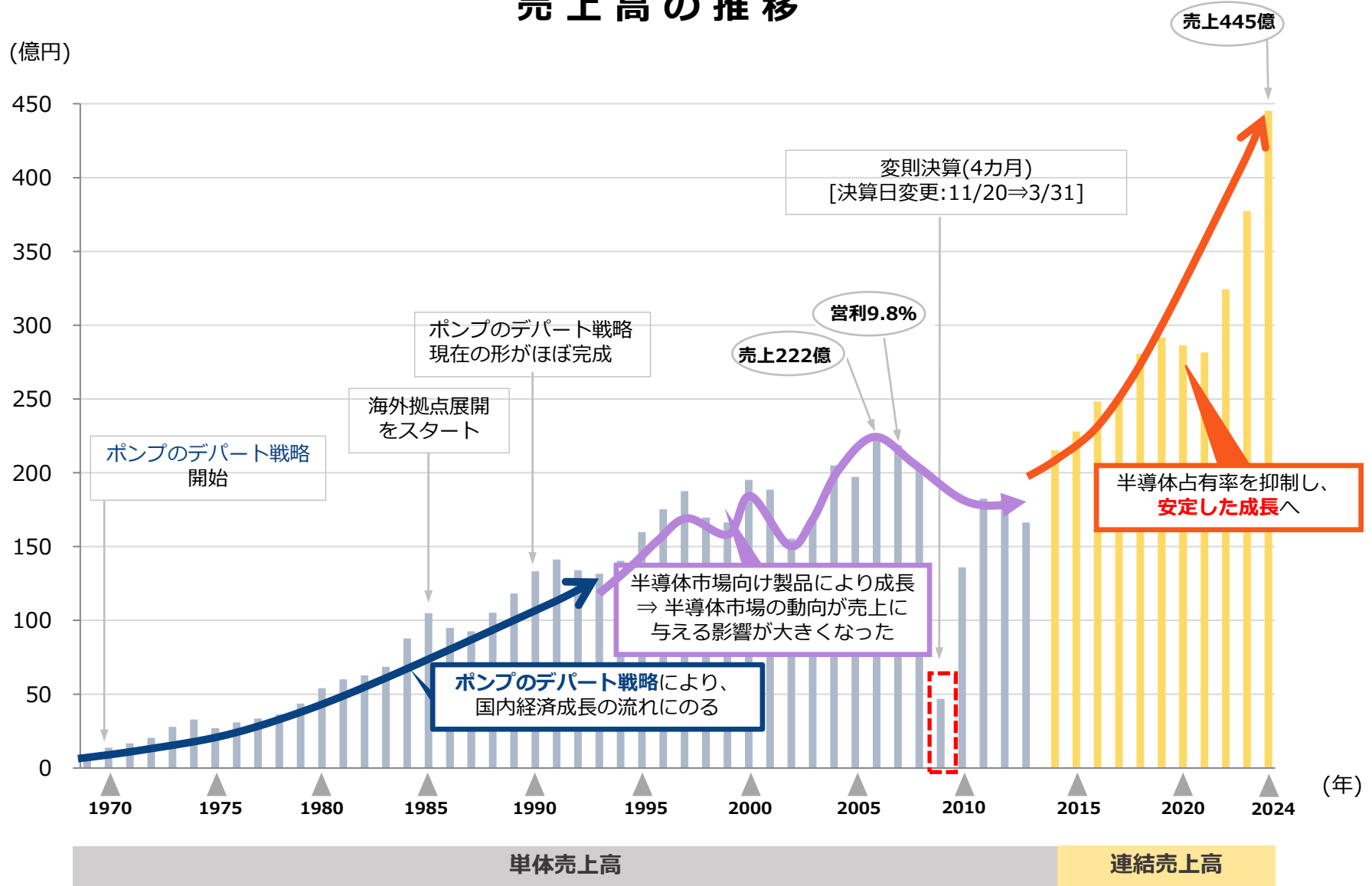
資本金 10億4,469万円

従業員数 連結：1,124人 / 単体：788人 (2024年3月31現在)

事業内容 ケミカルポンプ及びポンプ専用コントローラ等の周辺機器の開発・製造、仕入及び販売等

上場取引所 東京証券取引所
銘柄名：**イワキポンプ** / 証券コード：**6237**
市場：東証プライム市場

売上高の推移



ケミカルポンプとは



化学薬品等の薬液移送に使用されるポンプ



水を扱うポンプとは異なり、
ケミカルポンプは主に薬液等の移送時に使用される。
中には(人体に有害な硫酸等)危険な液体もある。



非常に高い **安全性** (漏れないこと)
が求められる

1

お客様の様々な要望にお応えできる
豊富な製品ラインナップ

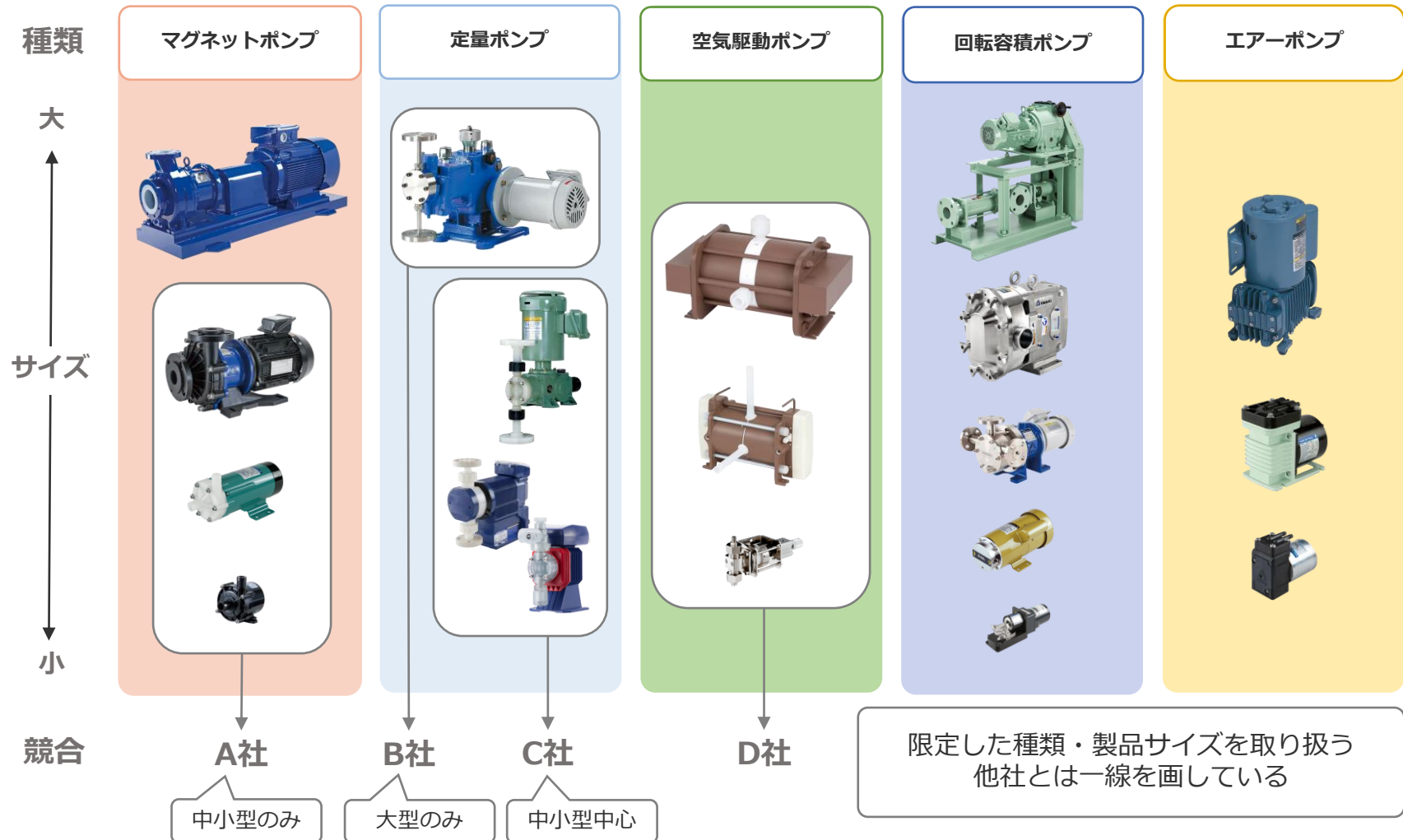
2

お客様への強力なサポートが可能な
世界規模の生産・販売・サポート体制

3

製品であるポンプを中心に
「流体を制御する」機能でソリューションも提供

各種ポンプ **60シリーズ以上**、**数万点にのぼる型式**を展開
あらゆる業界・現場の流体制御ニーズに、**ワンストップ**で応える



多品種少量生産を強みとしながら、**年間約80万台の生産能力**を有する

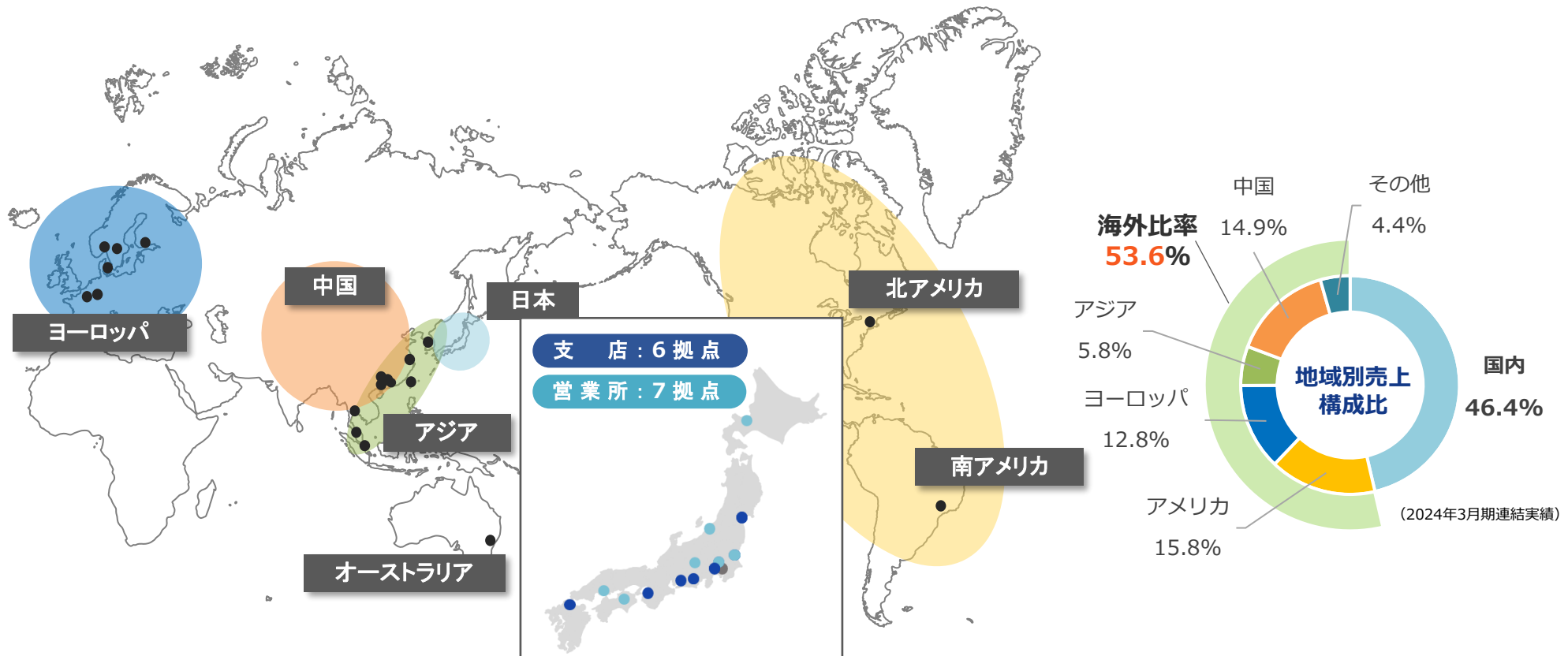
国内 … 多品種少量生産。強固な品質保証体制

海外 … 5拠点でのノックダウン生産*により短納期・在庫効率化

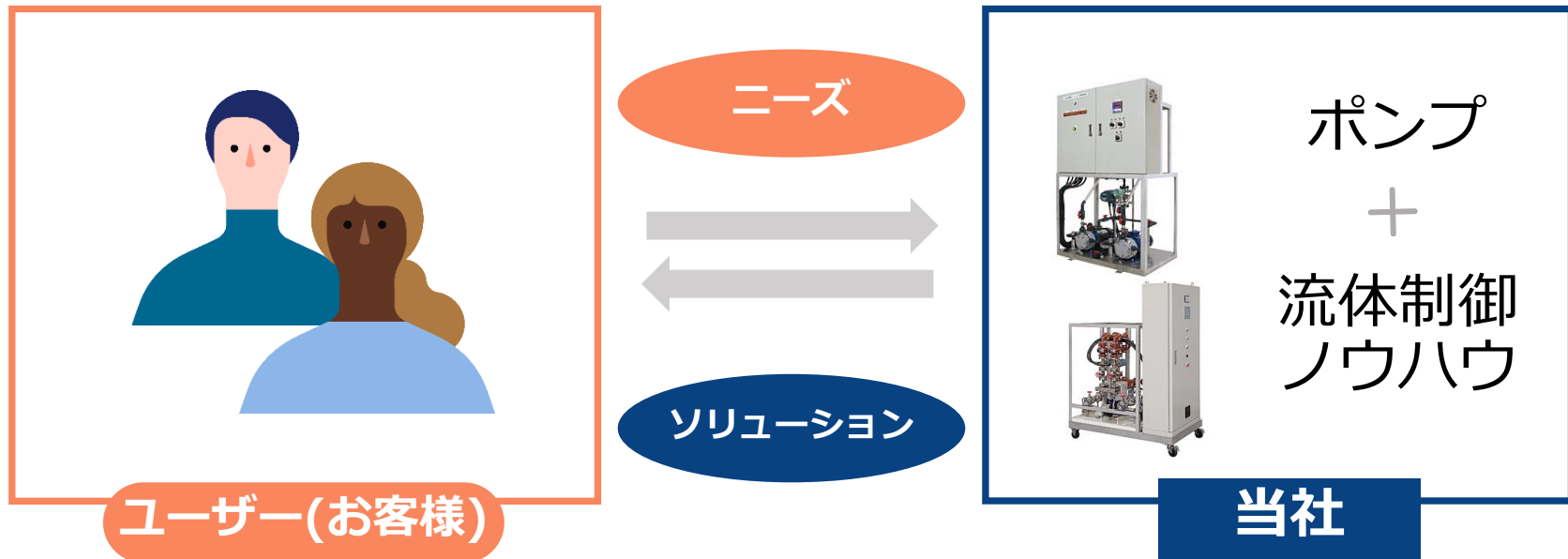
(*ノックダウン生産 … 製品の主要部品を輸出し、現地で組立する方式)



本社のほか国内主要13都市に支店・営業所を展開し、
15カ国21社のグループ会社で、ワールドワイドな販売・サービス網を構築



お客様の**ニーズ**にあった**ソリューション**を
ポンプと流体制御ノウハウを活用し提供





The Heart of Industry

社会の発展と人々の幸福に寄与すべく、
これからも常に最前線で産業を支えてまいります。

【お問い合わせ先】

株式会社イワキ 総務本部 総務部

E-mail : ir@iwakipumps.jp

受付時間 : 9時～17時30分

(土曜・日曜・祝日・その他当社休業日を除く)

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、本日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。